

人口問題のいま

日本の課題と挑戦

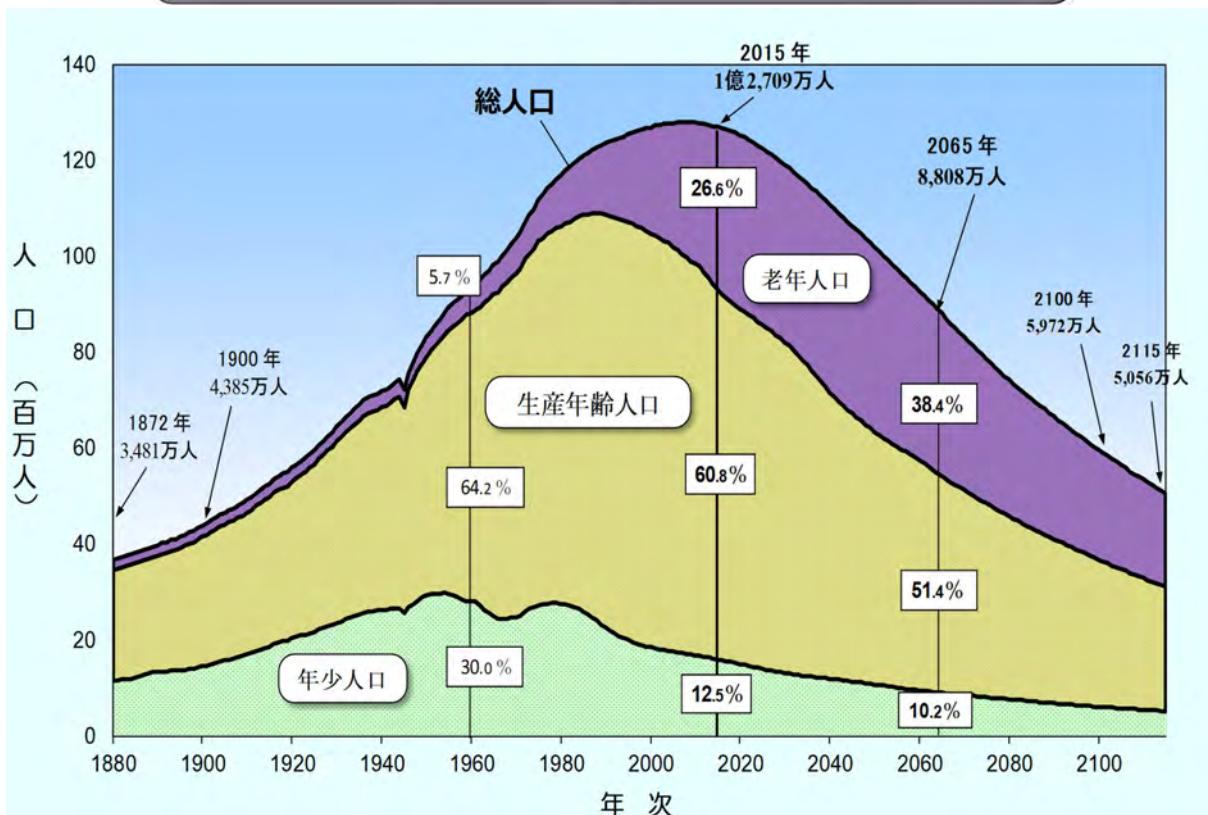
金子 隆一

明治大学 政経学部



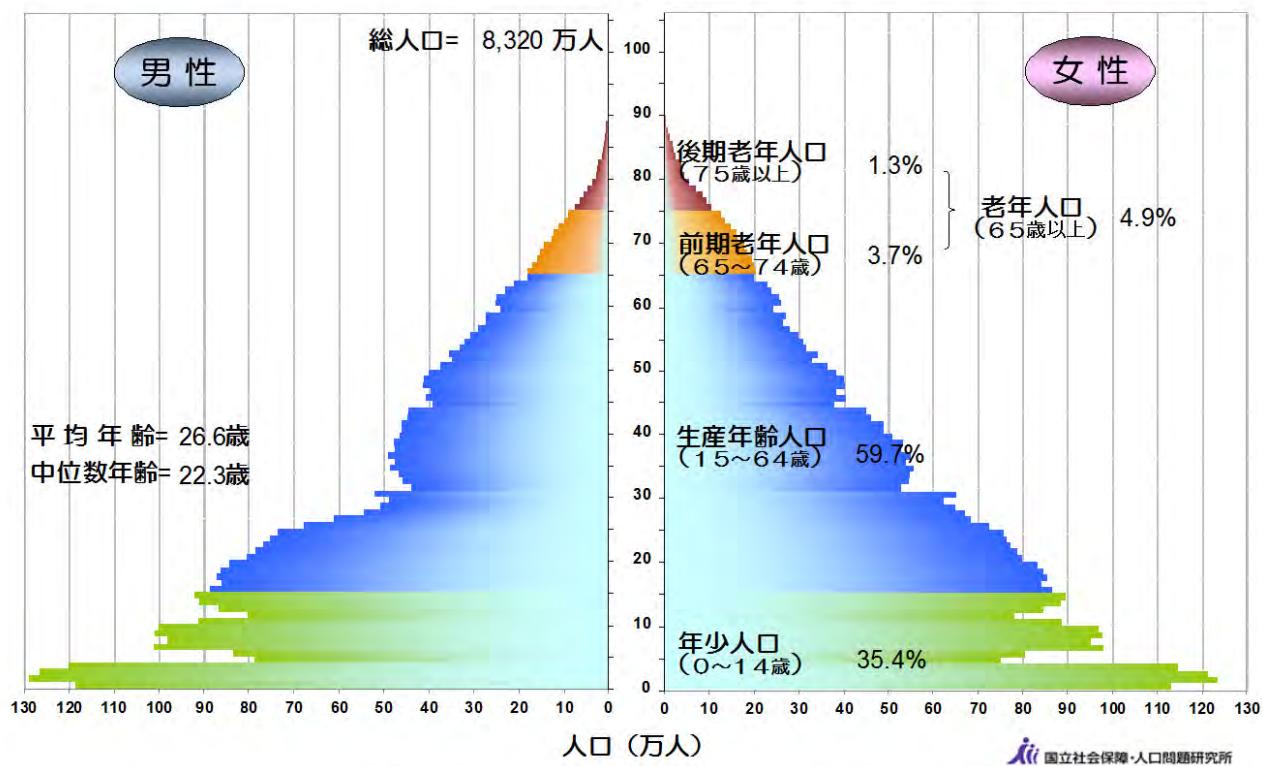
人口問題のいま — 文明の転換点

日本の人口動向：明治期～20世紀～21世紀～22世紀へ



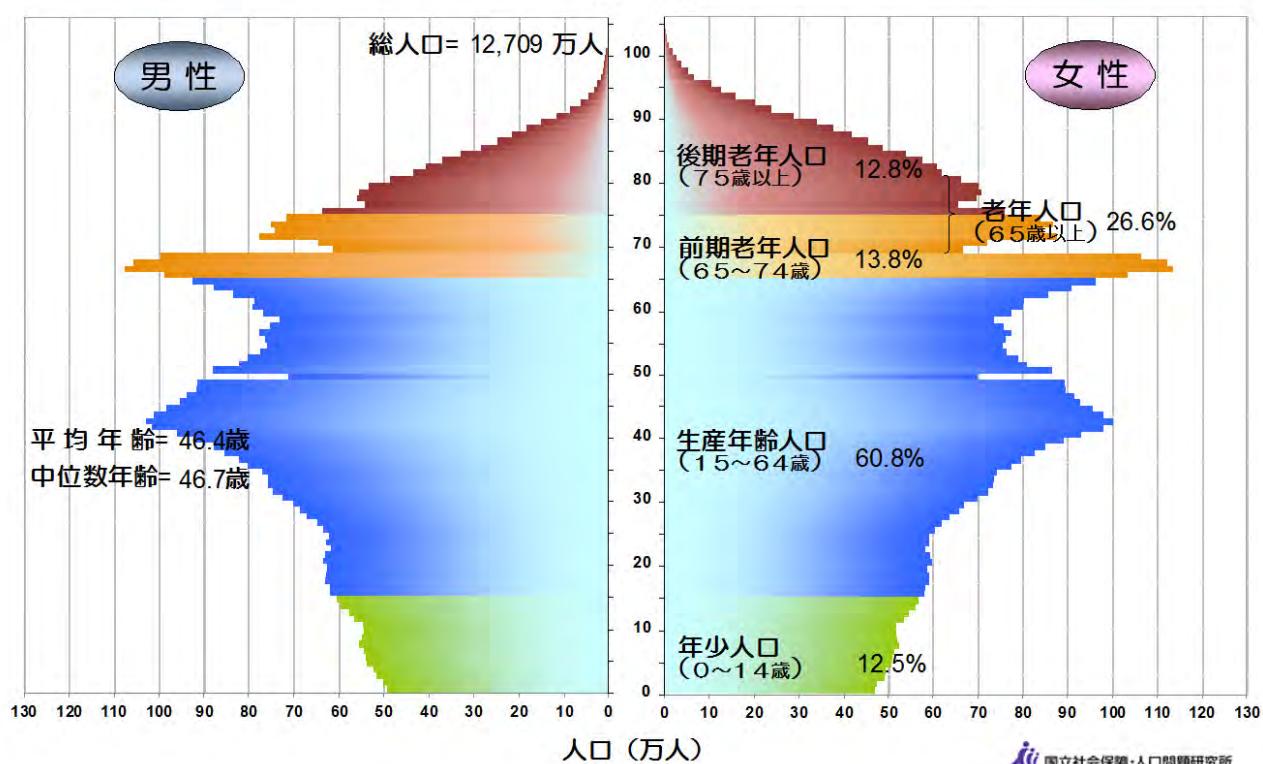
日本の人口ピラミッド: 1950~2015

1950年

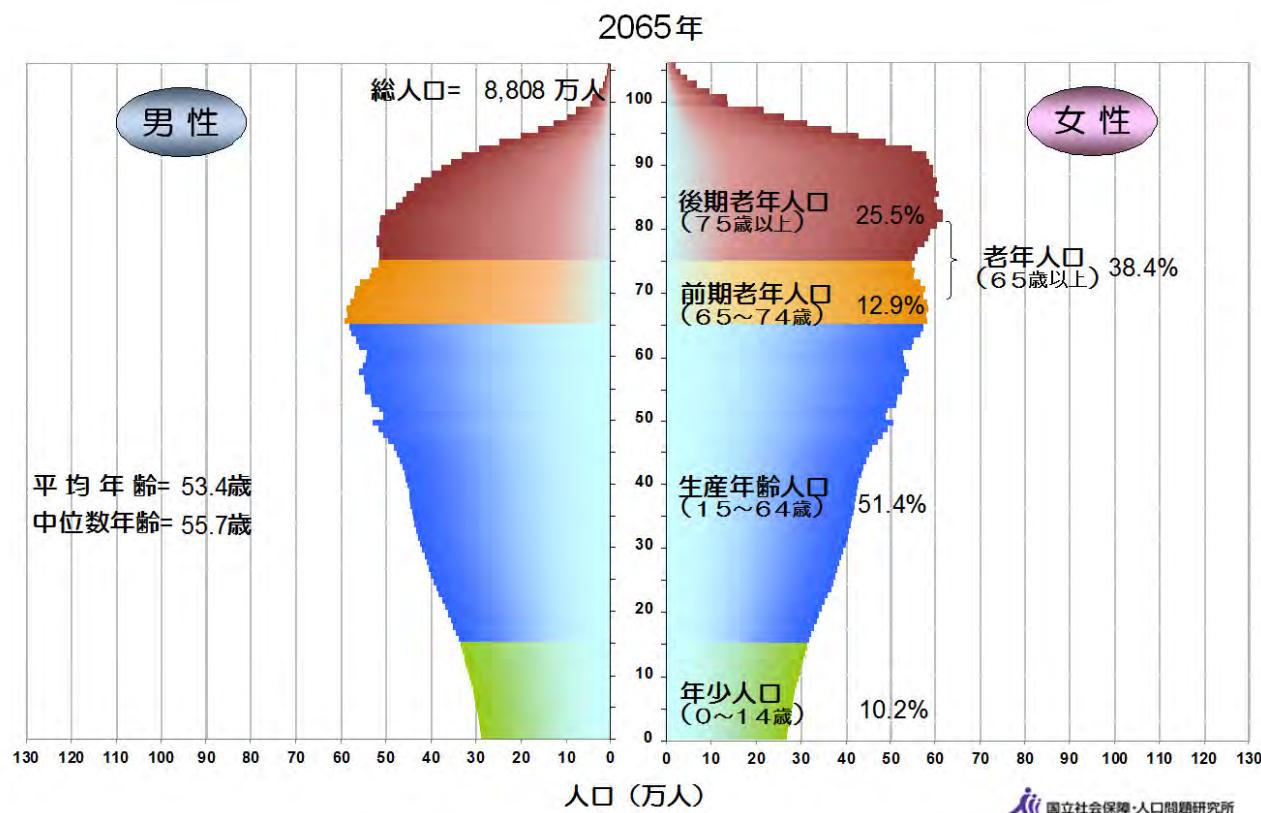


日本の人口ピラミッド: 1950~2015

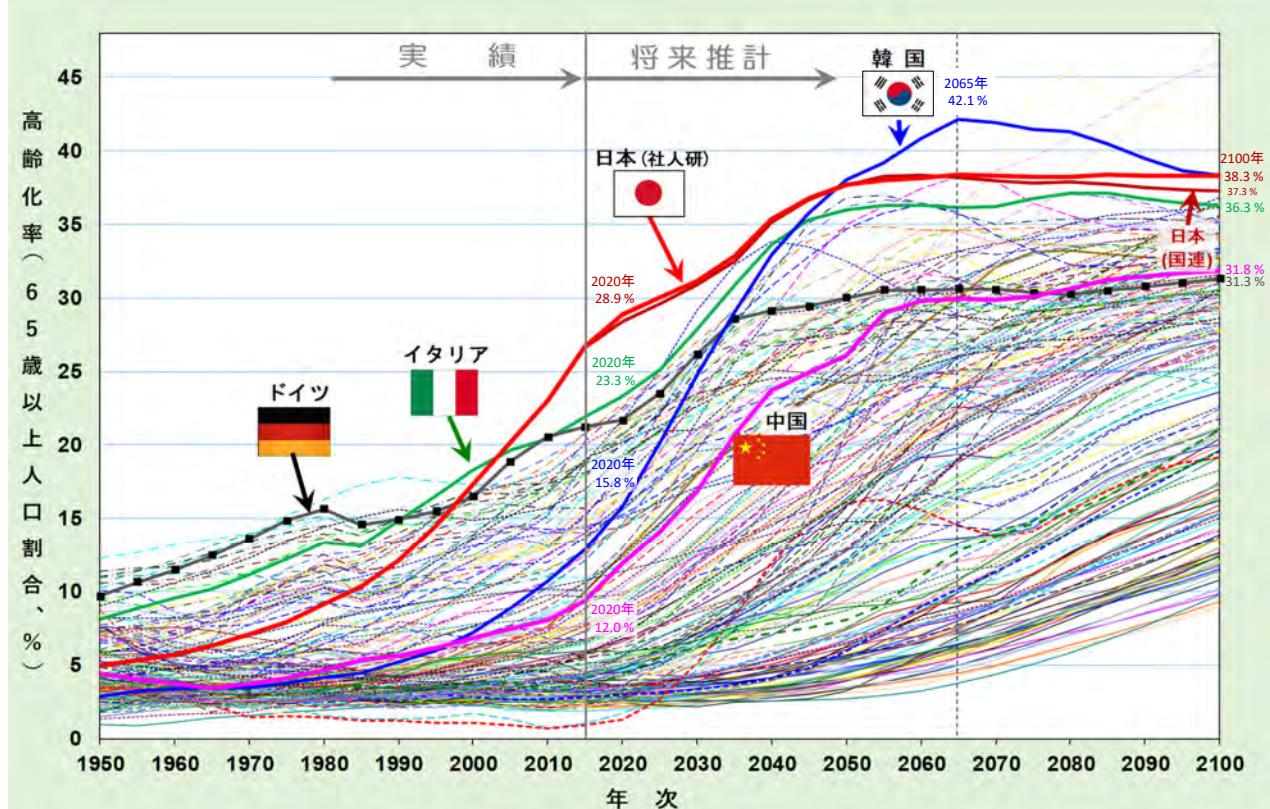
2015年



日本の人口ピラミッド: 2015~2065



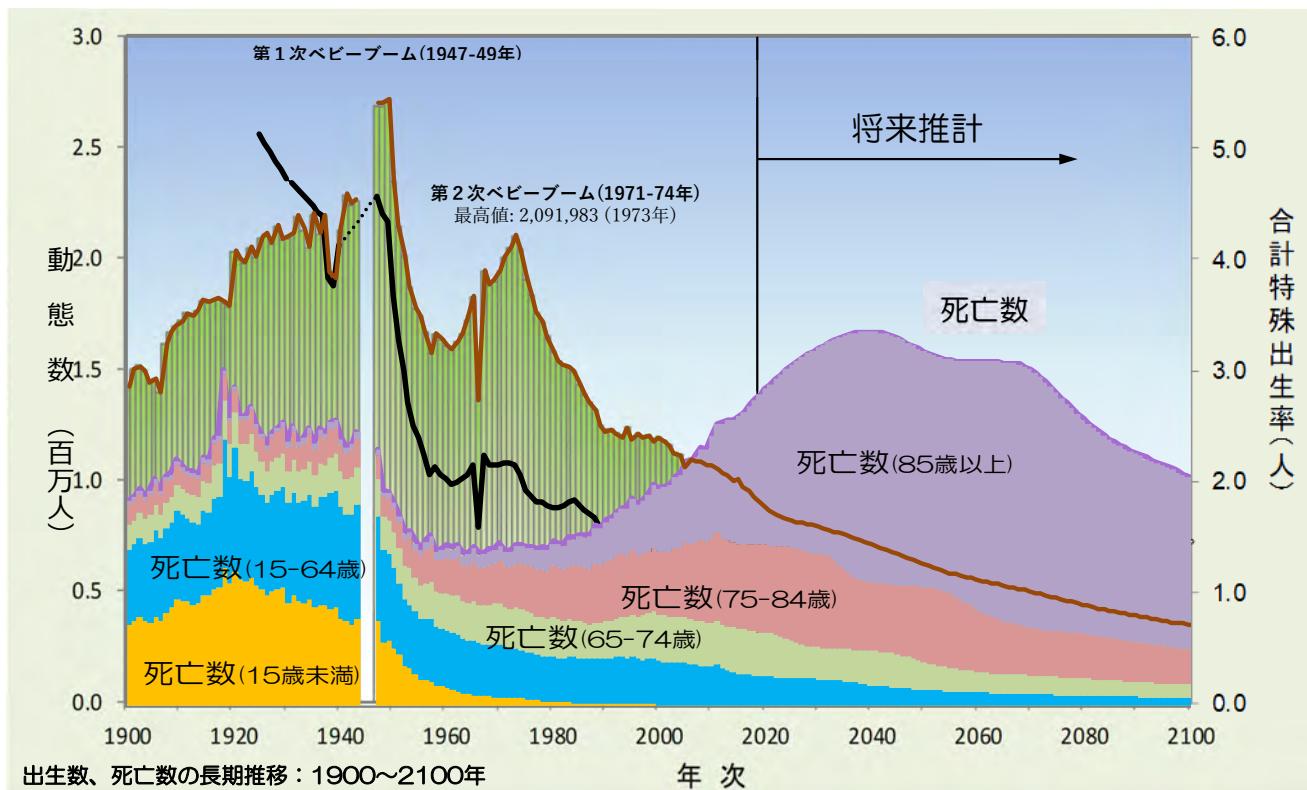
世界各国の高齢化率の推移 (1950~2100年)



資料: United Nations (2019), *World Population Prospects: The 2019 Revision*, 日本は総務省統計局「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計[出生中位・死亡中位推計]）」

出生と死亡になにが起きているのか？

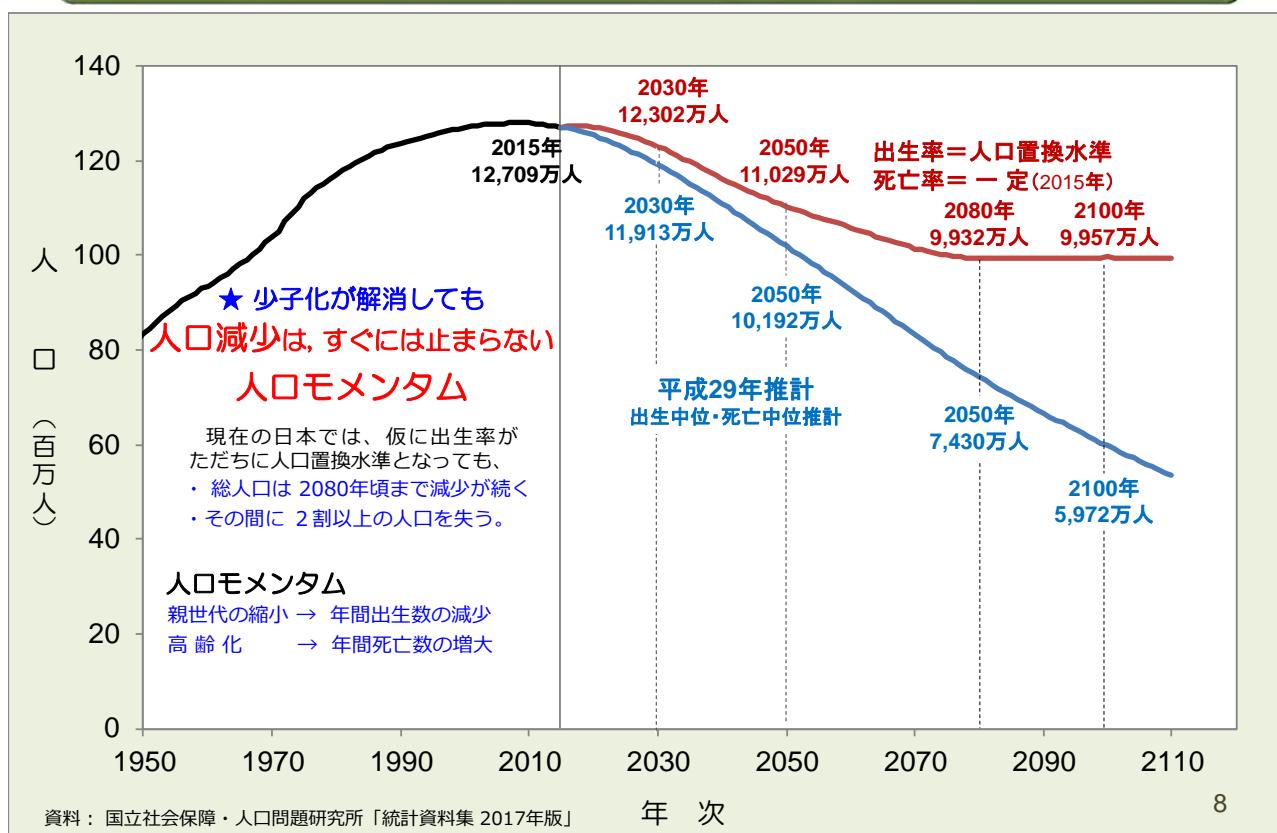
(1)出生率安定後の出生数減少 (2)長寿化進展下の多死社会到来



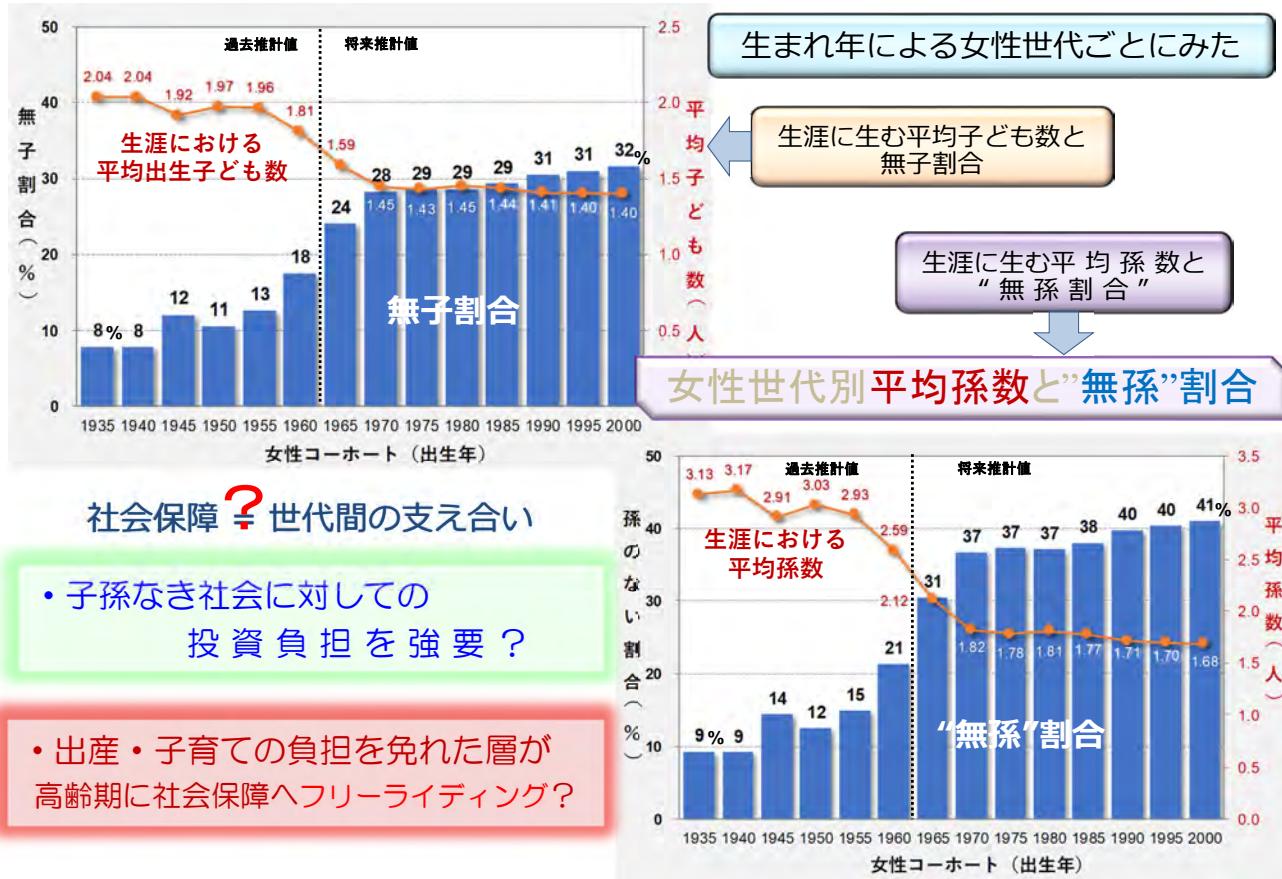
注：1900～2018年は厚生労働省「人口動態統計」(客体は日本における日本人の事案)による実績値。2019～2100年は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」出生中位・死亡中位推計による同客体における件数の将来推計値。

少子化を解消しても人口減少は止められない？：実験

人口減少に対する 人口モメンタム の効果を示すシミュレーション



女性世代別平均子ども数と無子割合



資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計[出生中位・死亡中位推計]）」の出生仮定。ただし平均孫数、無孫割合はこれを元に筆者推計。

意思決定構造の高齢化（1965～2065年）

年次			総人口中の有権者割合	有権者人口（選挙年齢以上日本人）の年齢構成			
実績	1965年	（ 20 歳 以 上 ） 旧制度		有権者「青年」率 (35歳未満)	有権者「壮年」率 (35～64歳)	有権者高齢化率 (65歳以上)	後期高齢率 (75歳以上)
	1990年	63.0 %	41.3 %	48.8 %	10.0 %	3.0 %	
	2010年	73.1	27.0	56.5	16.5	6.6	
将来推計	2016年	（ 18 歳 以 上 ） 新制度	81.0	20.9	50.8	28.3	13.6
	2040年		81.6	18.4	48.3	33.3	16.3
	2065年		83.5	20.3	47.2	32.5	15.9

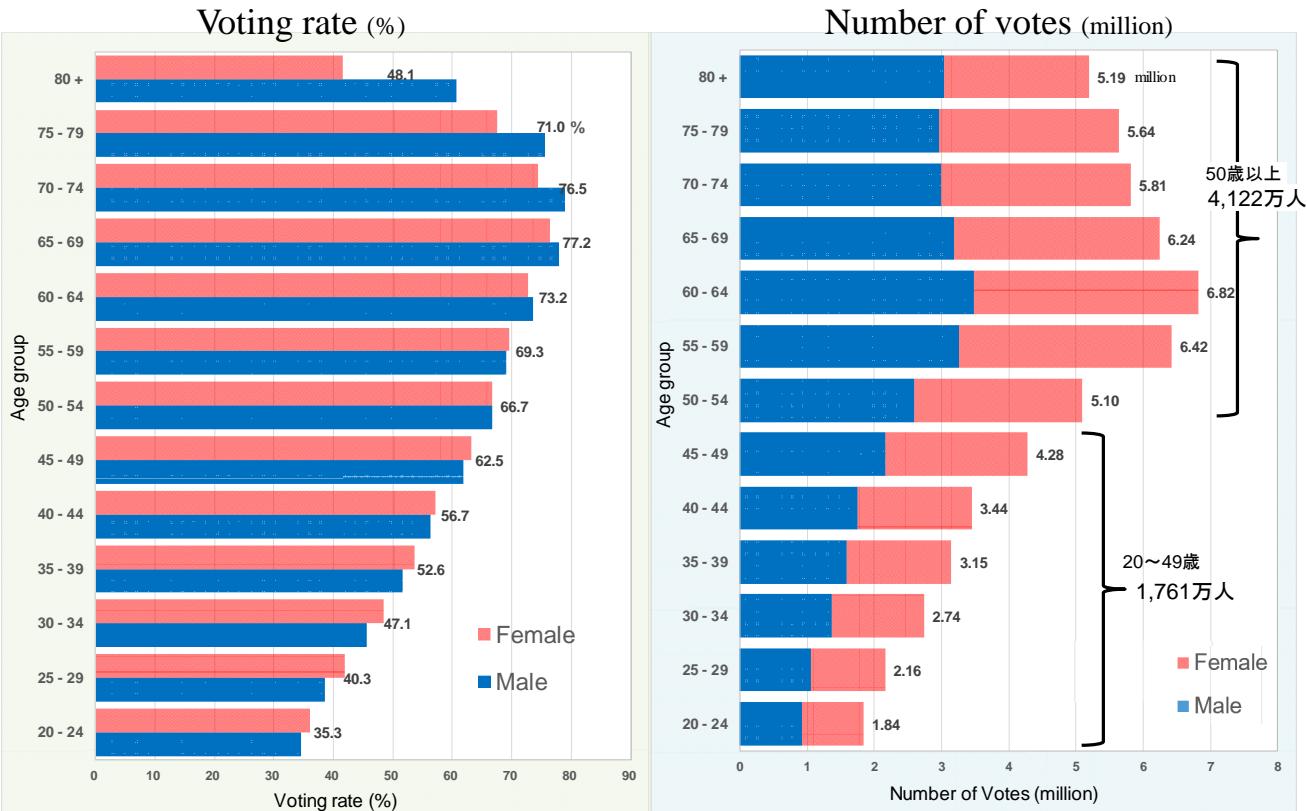
（注）有権者割合：総人口に占める規定年齢以上日本人人口の割合とその年齢層別構成比

有権者「青年」率：有権者総数に占める35歳未満の有権者数の割合、有権者「壮年」率：有権者総数に占める35～64歳の有権者数の割合、有権者高齢化率：有権者総数に占める65歳以上の有権者数の割合、有権者後期高齢率：有権者総数に占める75歳以上の有権者数の割合。

旧制度：各年10月1日20歳以上の日本人を有権者として計算、新制度：各年10月1日18歳以上の日本人を有権者として計算。

（資料）1955～2010年：総務省統計局「国勢調査」、2016～2060年：日本の将来推計人口（平成29年推計）[出生中位・死亡中位推計]より推計。

Voting rate and Number of votes by Age group in a national election of Japan, 2012

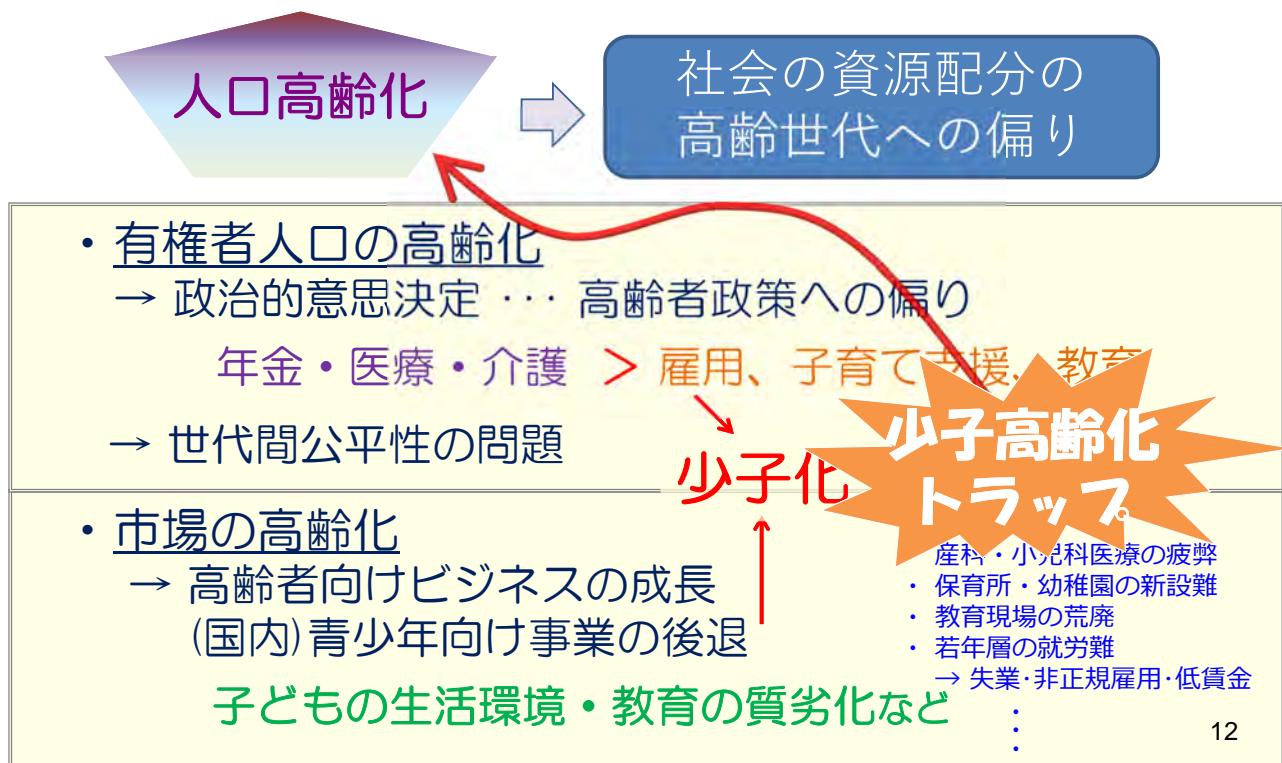


(Note) Figures are voting rate of both sexes combined.

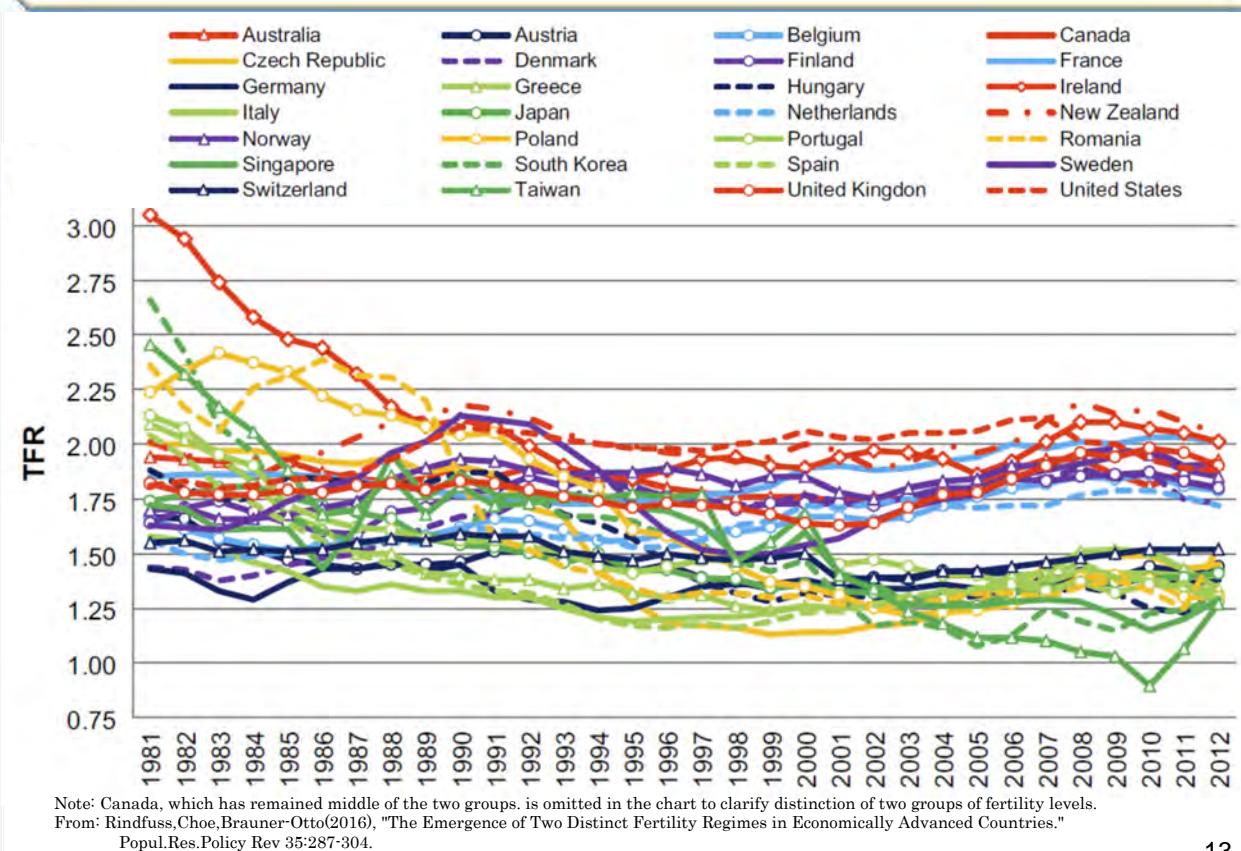
Sources: The 45th Lower House general election (Nov. 2012)

(Note) Estimates from the voting population multiplied by the voting rate. 11

プレストン効果、 または “シルバーデミocracy”



TFR's trends for economically advanced countries: 1981–2012



13

社会を支える理念の危機

I. 民主主義(政治)

“シルバー民主主義” → 社会の意志決定の“高齢化”

II. 市場原理(経済)

プレストン効果

→ 若年市場の劣化

III. 世代間の支え合い(社会保障)

人口構造の不均衡

家族消失・家系消滅

地方消滅

→ 支え手人口縮退
将来社会への
責任感

少子化
トラップ

再生産構造の崩壊
人口・社会の崩壊

持続可能性の崩壊
日本社会の崩壊

14

まとめ

【人口と社会のいま】

- わが国は今後21世紀を通して恒常的な減少が見込まれる。人口高齢化では100年以上にわたり世界の先頭を歩む。
- 日本社会は「いのちの再生産」を喪失したまま歩んでいる。
- この持続可能性を取り戻すことは、人口モメンタムや少子高齢化トランプの存在により非常に難しく、特別な努力が必要となる。
- 人口変化は、経済縮小、人口オーナス増大などにより経済社会の存立を阻害し、地方から順に縮退と消失が広がりつつある。
- 一方で新自由主義経済の展開やグローバル化によって、格差拡大、社会理念の揺らぎ、不平等・不公正感の増大などが進行してきた。人々は幸福感を失いかけている。このことは「いのちの再生産」ならびに人口縮退と密接にかかわっている。

【我々は何を目指して努力してきたのか？】

- 持続可能な「幸福社会」の実現。
- それを人口縮小社会の中に実現して行くこと。
- この現代世代の使命をどのように果たすのか。

15

「幸福な社会」実現の基本

いのちの再生産

すべての人が持てる能力を最大限に
發揮することを基本的人権と考え

けして人を使い捨てず
だれも取り残さない社会

課題への処方箋～量から質へ…

(1) 健康・寿命

- ・長寿化・健康寿命伸長を活かし、高齢社会像を変える
支えられる人口（高齢・被介護・患者）を支える人口に
高度な就労インフラ・介護インフラの整備 ← イノベーション活用

(2) 教育・教養

- ・教育・技術水準を高め、高度情報人材、イノベーション人材養成
バイオ／再生エネルギー／ICT／高度医療・再生医療／AI・ロボット
- ・教養、文化水準の向上 → ビジネス資源としての“文化”
観光、出版、映画、・・・
- ・コミュニケーション・スキル、社会性、社会資本の開発

(3) 倫理・品格

- ・“シルバー民主主義”／世代間対立／格差・分断・阻害／新型犯罪(特殊詐欺)
- ・将来社会に対する責任（将来世代の社会保障）をどう考えるか。
→ 社会保障制度への将来世代の包摂 → 新しい社会理念の共有

17

課題への処方箋～質を「実現」する社会へ

(1) 量から質へ

- ・長寿化・健康寿命伸長を活かし、高齢社会像を変える
- ・教育水準、技術水準を高め、高度情報化社会へ適応

(2) 全員参加社会の構築～将来世代を含めた社会保障

- ・個人が能力を最大限に發揮することを**基本的人権**とする社会へ
→ 女性、子ども・若者、障害者、外国人、各種マイノリティーの制約をなくす
→ 民主主義原理・市場原理の深化：“シルバー民主主義”プレストン効果の克服

(3) 社会イノベーションの実現

- ・新たな経済社会制度の創生 ← 技術革新・イノベーション
政治制度(民主主義←?)、経済秩序(市場原理←?)、労働(働き方←?)、
地域(消滅←?)、家族(断絶←?)、ライフサイクル(多様化←?)、
社会保障制度(世代間の支え合い←?)、移民(多文化共生←?)

ICT/再生エネルギー/バイオ
再生医療/ゲノム編集/AI・ロボット

18

21世紀変動の理解と挑戦へのヒント

本来 人口減少・少子高齢化とは近代化にともなう・・・

- ・ 健康・長寿の増進、ライフコース選択の多様化
という本来望ましい変化の帰結。
- ・ 処方箋はそれらの果実を正しく「実現」すること。
 - 健康・長寿を活かした柔軟な労働・社会保障制度
 - 多様な生き方・働き方が、公平公正にできる社会
 - 民主主義・市場原理への多世代スコープの導入

人口減少社会
到達点としての少子高齢社会



将来世代との「共生」・将来世代の社会保障

超少子高齢社会は人類史の一段階（文明の再体系化へ）

- ・ 新しい人口・経済社会レジームの構築が現在世代の責務
- ・ 日本モデルを世界21世紀モデルへ（ビジネスモデルとしての日本社会）
 - 人口の「質」と「多様性」を社会制度に実現
(健康・教育・才能…)